

埼玉トヨペット Green Brave



2019 RACE REPORT

【#52 埼玉トヨペット GB マーク X MC】

2019年6月29日(土)～6月30日(日)

AUTOBACS SUPER GT Round4

Chang SUPER GT RACE

チャン・インターナショナル・サーキット
(タイ・フリーラム)

修理のために長いピットインを要し、無念の 23 位チェッカー

GT300 のエントリー台数は 24 台。土曜日(予選日)の天候は晴。やや風が強いものの空は青く、スコールの心配はない。午前中に行われた練習走行では脇阪選手と吉田選手がクルマのフィーリングをチェック。足まわりを調整しながら Q1 突破に向けた準備を進める。ベストタイムは吉田選手がマークした 1 分 33 秒 865 (17 位)。チャン・インターナショナル・サーキットはマザーシャシーと相性の良いコースと言われているが、期待したほどの速さは得られていないようだ。走行終了後、足まわりに再度調整を加え、さらなるタイムアップを狙う。Q1 のドライバーは吉田選手。吉田選手はグリーンシグナルと同時にコースイン。タイヤをあたためながらアタックを開始する。1 分 36 秒 983、1 分 34 秒 210、1 分 34 秒 090 と順調にタイムを更新。この時点でトップ 10 圏内につけているが、Q1 突破(16 位以内)を確実なものにするためにはタイムアップが必要だ。吉田選手は渾身のアタックを見せ、セクター1 をベストタイムで通過。しかし、3 コーナー立ち上がりでスピン。幸いクルマへのダメージはなく、自力でピットに戻ることができたが、残り時間はほとんどなくアタックは終了。最終順位は 20 位(Q1 敗退)となった。

日曜日(決勝日)の天候は晴。土曜日より雲は多いが、昨日と同様、スコールの心配はない。スタートドライバーは脇阪選手。脇阪選手は 36 番グリッドからクリーンスタート。1 つ順位をあげ、19 位でオープニングラップを終える。脇阪選手は前を行く #18 NSX の背後にピタリとつけ、追い抜きのチャンスをうかがう。5 周目に GT500 の先頭集団が GT300 に追いつき、両クラス入り混じっての大混戦となる。脇阪選手は 7 周目に 3 つ順位を下げ、22 位に。#35 RC F を追いかける展開となり、その差を徐々に縮めていくが、トップスピードの差は大きく、抜くことはできない。17 周目、脇阪選手が無線を通じてミッションの不調を訴える。ラップタイムも低下し、ピットインのタイミングを話し合う無線が飛び交うが、脇阪選手の最低周回数(22 周)をクリアするまで走行を続けることに。脇阪選手は 22 周目の終わりにピットイン。クルマはピットに戻され、エンジニアや店舗メカニックが一斉に修理を始める。作業開始から 10 分経過後、エンジン再始動。吉田選手が乗り込み、変速の問題が解決されていることを確認した後、コースに復帰する。吉田選手の順位はトップから 11 周遅れの最後尾(24 位)。入賞は極めて難しい状況だが、最後まで走り切り、完走ポイントを獲得しておきたい。吉田選手のステイント序盤、アクシデントによりセーフティカー(SC)が導入され、リスタートとなるが、その後は大きな波乱もなく、レースは淡々と進行。吉田選手は安定したペースで走行し、23 位でチェッカーを受けた。

決勝結果(GT300)

#52 埼玉トヨペット GB マーク X MC

(脇阪薫一/吉田広樹)

決勝: 23 位(52 周)

予選: 20 位(Q1:1 分 34 秒 090)

GT300 決勝結果

1 位: GAINER TANAX triple a GT-R(日産 GT-R NISMO GT3)	62 周
2 位: リアライズ日産自動車大学校 GT-R(日産 GT-R NISMO GT3)	62 周
3 位: LEON PYRAMID AMG(メルセデス AMG GT3)	62 周
4 位: HOPPY 86 MC(トヨタ 86 MC)	62 周
5 位: マネパ ランボルギーニ GT3(ランボルギーニ ウラカン GT3)	62 周
23 位: 埼玉トヨペット GB マーク X MC(トヨタ マーク X MC)	52 周

天候: 晴、路面: ドライ ※トップ 5 まで(出走 24 台)



DRIVERS VOICE

スタートして10周を過ぎたあたりからシフトアップとダウンにトラブルをかかえてしまい、これ以上走行すると危なかったので、ピットに入り、時間をかけて修復しました。開幕から我々が持っているポテンシャルは発揮できていなくて、タイヤを活かしきれないまま、トラブルが出てしまいました。次の富士の後に菅生で公式テストがあるので、そこで車両開発はもちろん、待望の開発テストをやらせていただくと聞いています。後半戦、オートポリスや菅生など、我々が得意としているコースが続くので、開幕戦以上の結果を残し、ひと花咲かせたいと思っています。

(脇阪薫一選手)



セーフティカー明けで、後ろから来たトップ争いのクルマをうまく避ける事ができず、他のチームに迷惑をかけてしまいました。申し訳ない気持ちでいっぱいですが、トラブルにより勝負権はなくなりましたが、修理箇所の確認と今後のデータ取りのために残りのスティントを走りました。今回自分たちが望んでいた、思っていたような速さがなかったので、すごく残念な気持ちですが、マシンとの相性が良いレースはまだ残っているので、そこに向けてトラブルが出ないようにしなければいけないし、ドライバーとしても今日のような事が無いようにしなければなりません。

(吉田広樹選手)



埼玉トヨペット Green Brave PARTNERS 協賛各社



株式会社アシスト・ワン



アルパインマーケティング株式会社



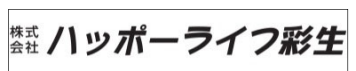
株式会社エヌ・ティ・コーポレーション



埼玉群スリーボンド株式会社



トヨタ部品埼玉共販株式会社



株式会社ハッピーライフ彩生

※50音順

【次戦予告】

8月3日(土)~4日(日)

富士スピードウェイ(静岡県小山町)